

良い生き方をしたのは誰かがわかる時代になった

それ、歴史を 50 年後、100 年後で見ると、「誰がいい生き方をしたのかが」が分ってきます。

若い人がその点では非常に不利なのは、自分が 30 歳だったら、同世代の人でもまだ 30 年しか生きてない。で、「30 年生きた人たちはどうなったか？」というと、「あいつは出世した」とか、「あいつは出世しなかった」とか、いろんなことが分るのだけれど、「一様に、いい人生を歩んだのは誰か？」という問題は分らない。

僕らぐらいの年代になると、僕は今 78 ですけれども、78 ぐらいになると、もう人生おしまいだね。だいたい 60 ぐらいまでは「あいつより俺は上だ」というのがあります。僕と同級生には学者になった連中が多いのですが、「俺の方が、あいつよりいい仕事をした」と言っていたりするのですが、優等生というのはしょうがないので、いつも序列が気になる。

例えば、何とか賞を取ったとか。ノーベル賞なら文句はないのですが、たいがい人はノーベル賞なんかあきらめてしまいますが、何とか賞を取ったということで、いい仕事をしたと。その前には東大教授になったとか、京都大学の教授になったとかいうのが出世の座標でした。だけど、つい最近ノーベル賞を取った東大出の教授はいないでしょう。どうも東大教授になるのと、ノーベル賞とが矛盾しているような感じになる（笑い）。

矛盾しているはずがないのですが、ただ、東大の連中がノーベル賞を取りづらいのはお役人になってしまうからです。だから、いつも流行の最先端にいるのが東大の仕事です。流行の最先端だから、「あの時は、あれが流行だったから仕方がないのだ」と後から言う。そんなのは学者ではないのです。